

日本聖公会

大阪教区報



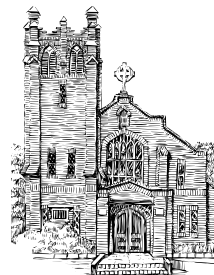
大阪聖ヨハネ教会



堺聖テモテ教会



庄内伝道所



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第513号 2023年9月20日発行 +++++

幅広い視野に立つて

司祭 ペテロ 岩城 聡

拙宅の数軒隣に、「ルーマニア正教会日本支部」の礼拝所ができた。礼拝所(教会)といつてもともと倉庫であつたところを改装して、[※]聖障

を作り、そこに数多くのアイコンを飾って、正教会の礼拝が執行できるようにした簡素な空間である。しかし、そこに司祭が立ち、20人ほどの信徒が心を合わせて立つと、そこに神聖な祈りの空間が生まれるのである。

もともと数軒隣のこのお宅には、聖公会に縁のあるご家族が住んでおられたが、代替わりとなり、そのお嬢さんがキューバ出身のアメリカ人(正教徒)とご結婚されたため、ご家族揃って正教会のメンバーとなられたと伺っている。つい最近までは、吹田にあるハリストス正教会に通つておられたが、ロシアのウクライナ侵攻後は、ウクライナ

支持の態度を明確にしているルーマニア正教会に移られたらしい。

まったく毛色が変わった教会に興味を持った私と妻は、オープンニングの典礼(聖公会ではおそらく献堂式)に参加させていただいた。3時間ほど続いた礼拝は、基本はルー



マニア語だが、時々英語、スペイン語が混じる。「主よ、憐れめよ」という日本語も時々混じる。恐らくはニコライ主教が明治期に翻訳したままの古式豊かな日本語なのだろう。私たちはすぐ隣の空間で、まことに非日常的な経験をさせていただいた。

その後も出会う度に、いろいろと情報交換をさせていただいている。8月5日には、「明日は変容祭ですね」と聞いて驚いた。「顕栄祭」とも言うらしい。聖公会の「主イエス変容の日」と同じではないか。正教会はユリウス暦を用いている関係で、教会暦はズレていることが多い。降誕日や復活日は一週間ほどのずれが多い。それでも、同じ趣旨の祝日が祝われていることに不思議な感動を覚える。私たちは西方の伝統に属するヴィアメディアの教会だが、教会の種類と問われると「カトリックとプロテスタントがあつて…」などと説明を始めてしまう。実はこれではキリスト教会の半分(以下)しか視野に捉えていないことになる。中世における東西教会の分裂によって西方からは見えなくなつてしまった東方正教会(各国ごと)に組織され、現在では10数カ国に存在している)はどうなるのか。また、古代の教理論争の過程で主流派教会から離れていった東方諸教会(コプト教会など)も

まったく無視されてしまう。神のご計画はもつとも豊かで大きいものではないか。2000年に及ぶキリスト教会の歴史を振り返ると、西方教会のしかもごく一部しか見えていない私たちの視野の狭さに気付かされる。

私と妻は2019年6月にウクライナを訪問する機会を与えられた。そこでも、ウクライナには「ローマ教皇の首位権を承認するが、典礼は自国の東方典礼で行う」という[※]「ユニエイト」「東方典礼カトリック教会」が集中的に活動していることを目撃し、礼拝にも参加した。「世の中は広い!」ことを実感させられた旅行であつた。

(大阪教区退職司祭)

※聖障 聖品を置き、聖別が行われる聖所と信徒が祈る場の聖所を分ける壁のこと。

※ユニエイト 東方第一教会、東方典礼カトリック教会、ギリシア・カトリックとも呼ばれる。15世紀以来のローマカトリックと一部の東方正教会の間での対話から生まれた教会。



宣教協議会プログラム

一昨年、全国の教会、関連施設・団体、教区、管区諸委員会にアンケートを配布し、2012年以降にそれぞれの場を取り組んでこられた働きについてお聞きしました。

「み言葉に聴き、伝えること」「世界、社会の必要に応え仕えること」「生活の中で福音を具体的に証しすること」「祈り、礼拝すること」「主にある交わり、共同体となること」(「教会の5要素」から) 事柄の大小にかかわらず、それぞれの置かれた地域、生活の場で、キリストのおどりの枝となる働きが回答に寄せられました。それらを見える形で宣教協議会に持ち寄ってみよう、そのような意図から、各教区・教会等による「実り持ち寄りブース」が計画され、11月に清里に集まる参加者の皆さんを通じて準備をお願いしています。ローカルに立つ教会の、今あるものを集合させることよって見えてくるものは何でしょうか。今回の宣教協議会はそのから出発となります。

信徒数の少ない教会の話を

聴くプログラム「私たちのあゆみ」物語を聴くも予定されています。沖縄県名護市にある屋我地聖ルカ教会、長崎県対馬市にある厳原聖ヨハネ教会、秋田県大館市にある大館聖パウロ教会がご協力くださるようになりました。過疎や高齢化が進む地域や少ない信徒の群れであっても、神様がなされている宣教のみ業に参与し、福音を体現することができるとを、証するものになるのではないかと期待します。

昨年開催された「ぶどうの枝協議会」では、

「ぶどうの枝協議会」では、宣教協議会で、地域や社会で出会う人と共に歩み、共に生きる働きに焦点を当てること提案されました。プログラムとしてどのように考えられるか検討を重ねた結果、「命の現場から聴く」パネルディスカッションと分科会が計画されています。こどもと生きる現場、多様性に生きること、カルトの問題、ホスピタルケア、貧困の問題について向き合い働かれています。ゲストとして

お招きします。パネリストの紹介は宣教協議会プログラムの「管区事務所だより4月号」から見る事ができます。

3月～5月には、祈祷書改正委員会、女性デスク・ジェンダープロジェクト、主教会と「ぶどうの枝分科会」を開きました。日本聖公会の取り組みや課題に目を向け、変革への展望と未来を見据えるためのプログラムは宣教協議会のもう一つの柱となります。これらは現在、実行委員会で詰められています。

私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私にながっており、私もその人にながっていけば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。(ヨハネによる福音書15:5 宣教協議会主題聖句)

いつも私たちの真ん中に「ぶどうの木」であるイエス様がおられることを見つめながら、11月に向けての準備の過程が、皆さまと共に歩む宣教協議会、清里への道のりであるようにと願っています。



教会遠足

大阪教区生涯学習委員会・子どもプロジェクトでは、教区100周年記念事業として「教会遠足」を企画しました。教区内の様々な教会での交流を目指し、子どもからすべての世代までが関わりながら、信仰や宣教が次の世代へつながることを目指します。

キッズフェスティバル実行委員会のメンバーが中心となっており、教会の子どもたちと一緒に他教会を訪問し、礼拝を通して教会のつながりを感じる体験です。

第1弾の教会遠足は西宮聖ペテロ教会で開催されました。朝、礼拝堂に入ってきた



子どもたちは、パイプオルガンを見て「あれはなに？」と聞いたり、あちらこちらを見回したりして少し緊張した様子です。いつもの聖歌、いつもの祈祷書、でも他所の教会で礼拝をささげるということは新鮮な経験だったようです。陪餐を受けて席に戻ってくると「全然違う味やった」とひそひそ話したり、いつも以上に熱心に集中して礼拝したりする姿が見られました。

礼拝後は、各自持参した「おにぎりべんとう」で昼食を済ませ、豊かな実りの庭で「すべてをおつくりになった神さま」の世界を感じながら、子どもたちはたっぷりと水遊びを楽しみました。子ども27人、大人33人の参加でした。

ペテロ教会の方からは「こんなにたくさんの子どものがいてビックリ！そして、なによりその親御さん世代の若い人たちが集っていてビックリ！あんなに楽しそうに交流があつて、教区にこどもや若い人、沢山いるんだ！！」と感想を頂きました。

まさに、教会遠足のねらいそのものです。これからも、いろいろな教会にみんな



2023年8月20日(日)午後3時から川口基督教会にて神学生を囲む集いが開催されました。今年は制限無しで開催となり、56人の参加がありました。

神学生を囲む集い報告

ヨシユア 田尻 忠邦

行つて、皆さんにビックリしてもらいたいと思います。子ども達は、帰り道でも、帰宅後も楽しかったと繰り返し返していたようです。

ペテロ教会の皆さまに支えられて、子ども達、大人達にとっても、神さまのみ恵み

いっぱいの時を過ごすことができ感謝です。キッズフェスティバル、教区礼拝、教会遠足、と繋がることを、神さまが見せてくださっていると感じました。

共に祈る、声を合わせて賛美する、一緒に遊ぶ経験で、

子どもたち自身が「信仰共同体」の一員であると感じることができたのではないでしょうか。

(大阪教区生涯学習委員会
キッズフェスティバル実行委員会

石橋聖トマス教会
ヘレナ 斎藤 (みち)

まず、大倉由紀聖職候補生が、自身の信仰歴について語られました。高校時代に不登校となり、その時に聖書と出会い、教会の勉強会に参加し、19歳でメソジスト教会にて洗礼を受けられたそうです。その後、関西学院大学神学部に進学し、26歳の時に教団の伝道所の副牧師になり、30歳の時に桃山学院中学校高等学校の聖書科教員の募集に応募し、採用が決まった時に聖公会へ転籍するという大きな決断をされて今日に至っているとの事でした。

次に、薦田久美子神学生は、ウイリアムス神学館での学業生活を自室や図書室、食堂、



来年4月修了を迎える予定の大倉聖職候補生

浴室と中庭の四季折々の写真をたくさんスライドを上映して、説明してくださいました。

続いて、エスター・マクストン神学生(大阪城南キリスト教会推薦)は、インド出身で現在、大阪公立大学と大阪女学院にて教鞭をとっておられますが、父親が宣教師であるクリスチャンホームでの生い立ちや神様との出会いと聖霊の導きについて語られ、神様が私を愛してくださる事に

公 示

救主降生 2023年9月1日
日本聖公会大阪教区 教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記の通り、9月1日付の人事を発令します。

主教 アンデレ 磯 晴久
聖ルシヤ教会、聖ルカ教会の管理牧師に任命する。

司祭 ヨシユア 原田 光雄
休職を命じる。期間は治療終了までとする。

司祭 アモス 金 頭昇
博愛社チャプレンに任命する。

大阪教区教役者、信徒の皆様へ 大阪教区合同埋葬式のご案内

日時：2023年11月4日(土)14時より
場所：大阪霊園
(大東市龍間331 TEL 0120-69-1117)
申請締切り：9月末
お問い合わせは大阪教区事務所 太田まで
教区事務所 TEL 06-6621-2179

感謝して、これからの人生をイエス様に献げる決心をして聖職者になることを志したそうです。

囲む集い終了後、礼拝堂にて大倉聖職候補生の司式で夕の礼拝が執り行われました。説教はヒューム執事がされ、献金3万2千620円は、神学生育成資金として献げられました。

(神学生後援会理事・
大阪聖ヨハネ教会信徒)



羊だより

―息のつけるスペース― 第1回

主教 アンデレ 磯 晴久

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ3:16)

さんが自らに重要な問いかけをします。

もう随分時が経ちました

「私たちの教会はここで何のためにあるのか。」このように問うのはいくつかの理由がありました。教会は800年の歴史を持つ教会でしたが、信徒に60歳以下の人はほとんどおらず、教会の屋根も150年前のもので、すぐにも改修の必要がありました。財政も逼迫していましたが、信徒の皆さんは、この歴史ある教会を次世代に引き継ぎたいと願っていました。教会が将来どうあるべきか、ヴィジョンやアイデアが必要でした。管理司祭のもと、教会員一人一人との対話を開始したそうです。

が、私は東京用賀にあります聖公会神学院で、聖職者になるための学びをさせて頂きました。2021年は聖公会神学院創立110周年の年でした。創立記念礼拝と共に、英国ダラム大学元教員アラン・サゲイト博士を招いての記念講演会が開催されました。昨年届いた聖公会神学院「神学の声」(第50巻81号)に、サゲイト博士の講演の翻訳が掲載されており、先日これからの大阪教区の歩みの参考になるので、改めて読み直してみました。博士は2回講演をされたのですが、第1回目の講演のテーマが、「息のつけるスペース・プロジェクト」でありました。

博士の所属するイングランドン北東部ダラム市郊外の小さな村の教会の再生の報告です。およそ14年前、信徒の皆

対話の中で、与えられたみ言葉が、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネによる

「杖ひとつ」

恵我之荘聖マタイ教会

「恵我之荘聖マタイ教会の宝物」

マリア 井上 美津

恵我之荘聖マタイ教会は、近鉄南大阪線恵我ノ荘駅下車徒歩3分の住宅街にある、小さな可愛い教会です。2023年9月に、教会創立60周年を迎えます。

書協会共同訳)で、聖マタイ日に読むことにしていますが、最近飾るだけになっています。

創立50周年の記念礼拝は、教会内外から大勢の皆様にご出席して頂きましたが、今回は教会信徒と近隣の皆様と一緒に祝いをする予定です。

次に、玄関入り口に飾ってある50周年時の額縁に入った大型サイズの集合写真で、今も「あの方この方」と懐かしく、話に花が咲いています。

宝物のひとつは、30周年を記念して、教会の名前にちなんで信徒が協力して写した「マタイ福音書の写本」があります。立派なものですが、以前の口語訳(俗に言う「聖

目に見える宝物では無く、信徒全員の心の中にある宝物は、タクシーと電車を乗り継いで礼拝にご出席になつておられた植松徒爾主教様(元

福音書3:16)であり、この聖句の下に、プロジェクトが準備されていたそうです。特に、注意を向けたのは、人生に苦闘している人々、息苦しさを感じている人々に対してでした。神様の大きな愛が、地域の人々に注がれていると信じ、信徒だけでは

なく、人々が生活の中で、息のつけるスペースを提供するように構想されていきました。さて、この「息のつけるスペース・プロジェクト」がどう展開していくか、次回の羊だよりでご紹介します

(大阪教区主教)

中部教区主教)ご夫妻で、今でも聞こえる徒爾主教様の「アーメン」の声と、喜久江夫人が信徒の悩み・相談を聞いて下さり、力強く励まして下さった声や、オルガン演奏や聖歌の指導をなさる時の声は、何時までも心に響いています。

大阪教区婦人会 秋の修養会

日時：10月18日(水)午後1時～
会場：大阪聖三一教会
講師：博愛社児童養護施設地域小規模担当副主任・
自立支援担当 勝原 駿 氏

2023年 信徒奉事者研修会 報告

ルデヤ 川村 直美

残暑厳しい8月27日(日)聖

霊降臨後第13主日聖餐式の後、14時から大阪聖愛教会にて、教役者を含めて26人の出席者とともに年に1度の信徒奉事者研修会が開催されました。

講師のテモテ内田望司祭の準備された詳しいレジュメに従って分かり易くお話しくださいました。今回の学びは、礼拝の中の所作と聖餐式での所作についてでした。

聖公会が大切に受け継ぎ伝統的に守られている所作は、自ら形を整えていくことにより、喜びにあふれて自身の心の中の神への崇敬と感謝と賛美を顕わす事であると学びました。また礼拝の中の所作の起源は、聖書の中にあるということでした。

礼拝での所作の一つ目は、神様に招かれて喜びあふれて礼拝に出席する私たちは、心静かに沈黙をもって神様の呼びかけを聴くこと。二つ目はイエスのお名前に礼をする。三つ目はいくつもの場面で十字を切るなどでした。

聖餐式での所作の中の聖書朗読では、殊に私自身、平素

からルブリックをよく読むように指導を受けているにも関わらず、つい読み損ねていることに注意すること。最も大切な福音書の聴き方。代祷。そして陪餐ではこの週の糧として喜びをもって恭しく命のパンをいただく。パンをいただくときは「日ごとの糧」としてキリストの体をしっかりと見つめる。そしてアーメンと唱える。キリストの血をいただいたときに罪が赦される。そしてアーメンを唱える。また、いくつもの場面で十字を切る。などでした。

書ききれない沢山の重要なことをお教えいただき、実り豊かな充実した研修会でありました。当日の信施金15,890円は西成のふるさとの家に献げられました。

会場を提供して下さいました大阪聖愛教会の皆様のおもてなしに感謝いたします。

(大阪聖アンデレ教会信徒)

信徒のための夏の黙想会

ペテロ 鈴木 憲二

8月11日(金・休) 午後1

時30分より大阪教区聖職養成委員会による信徒のための夏の黙想会が大阪聖アンデレ教会で開かれ、連日の猛暑にも拘わらず41人の熱心な方々が参加した。「じぶんを振り返る」と題して3回に区切って講話、黙想の時をもって会は進められ、講話は守口聖オースティン教会牧師の義平雅夫司祭によって行われた。

幼い頃の思い出から始まって現在に至るまでの道のりを語られた。誰にでも幼い頃の思い出は記憶にあると思われるが、師は特に祖母との思い出が今に繋がっていると話された。祖母の家に行くとき大きな仏壇があり先祖代々の写真が壁にかけてありローソクが点けられ線香がたかれ護摩木が燃やされていた。それらは教会の祭壇のローソクと重なる思い出がある。祖母の家からの帰りに空を見上げると明るく清められた感じがした。

青春時代に長い入院生活を

したが、その頃に読んだ本が生き方そのものを変えたようである。命の営みは自分の力で変えることができない。やがて日本基督教団の牧師となったが、聖路加国際病院での研修が聖公会転籍のきっかけになった。毎日行われる病院の朝の祈りは特に心に響くものがあつた。

結びにマルコによる福音書2章1節から、4人の男が中風の人を運んで、屋根の一部をはがしてイエス様に会わせると話を引用され、病氣の人を通してイエス様に会おう喜びは素晴らしいと話された。

その後夕の礼拝が行われ信施金27,700円は守口ぶどうの家のために献げられた。

(尼崎聖ステパノ教会信徒)



【常置】委員報告 7/14(定例) 第11回

I. 主教報告及び諸報告

・6月12日(月)に聖バルナバ病院創立150周年記念礼拝が行われた。

・9月4日(月)〜20日(水)、ブラジル聖公会日本人宣教100周年記念の宣教シンポジウムに小林聡司祭がパネラーで参加。

・9月18日(月)から日韓聖公会協働共同会議が済州島で開催される。磯主教はズーム参加。

・今後、教役者は年に1回は1主日を挟んで休暇をとることを各教会に願う。

【総務局】

・教区事務所の夏季休暇を8月10日(木)〜17日(木)とする。

【宣教局】

・キッズフェスティバルは、今年度「教会遠足」を実施。7月30日に西宮聖ペテロ、9月24日に聖三一に出かけ、礼拝に出席、現地でキッズ活動を行う。

【教区婦人会】

・10月18日(水)、聖三一で秋の修養会を開催予定。講師は地域小規模児童養護施設

大阪教区関係教役者
10月逝去者記念聖餐式

10月11日(水) 10:30~

- *説教者: 主教 アンデレ 磯 晴久
2日 司祭 ジョージ・チャプマン (1940英)
5日 司祭 サムエル 福田 光宏 (2013)
9日 主教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
12日 司祭 マルコ 岡 精三 (1997)
16日 主教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
主教 サムエル・ヘーズレット (1947英)
18日 司祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
20日 司祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949英)
23日 司祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
24日 司祭 深田 直太郎 (1971)
司祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971英)
29日 司祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング (1927米)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

高槻聖マリヤ教会(8月13日)
フランシスカ 萬代 百々花

洗礼

- I. 協議事項
* 教区事務所職員公募に応じられた2名の候補者の面接を行い、常置委員会推薦について協議した。
* 原田光雄司祭が病気療養となられたことから、ルシヤ教会の対応等について協議した。

- 設「つむぎ」の担当者。
II. 協議事項と主教諮問
* 6月11日に行われた教区成立100周年記念礼拝を振り返り、来年度以降の教区礼拝に生かすことを確認。
* 教区の今後について、説明会の日程、手順などを協議した。
* 教区事務所体制と後任人事について協議した。
* ヒューム執事の司祭按手式について協議した。
* その他、主教人事案を確認した。
【常置委員会報告】 7/17 第12回(臨時)
* 教区事務所体制について、ズームで協議を行った。
【常置委員会報告】 8/10 第13回(定例)
I. 主教報告及び諸報告
* 新型コロナウイルス感染症対策関連で、第9波の中、油断しないようにとの注意喚起あり。
【総務局】
* 教区事務所体制の振り返りと現況について説明があった。
【財政局】

- 弥生会計による月次報告があり、教区分担金累計が着実に推移している旨、報告があった。
* 以前、局費としてまとめられていた支出分の区分けについては、今後も検討を重ねる。
II. 協議事項と主教諮問
* 教区事務所職員の退職金について協議した。
* 教区事務所職員公募の件について協議した。
* 教区会書記について、柳時京司祭(長)、金山将司司祭、内田望司祭とすることを了承。
* 教区の今後について協議し、主教人事案を確認した。

高槻聖マリヤ教会(8月13日)
フランシスカ 萬代 百々花

洗礼

- I. 協議事項
* 教区事務所職員公募に応じられた2名の候補者の面接を行い、常置委員会推薦について協議した。
* 原田光雄司祭が病気療養となられたことから、ルシヤ教会の対応等について協議した。

- 弥生会計による月次報告があり、教区分担金累計が着実に推移している旨、報告があった。
* 以前、局費としてまとめられていた支出分の区分けについては、今後も検討を重ねる。
II. 協議事項と主教諮問
* 教区事務所職員の退職金について協議した。
* 教区事務所職員公募の件について協議した。
* 教区会書記について、柳時京司祭(長)、金山将司司祭、内田望司祭とすることを了承。
* 教区の今後について協議し、主教人事案を確認した。

第三回連続セミナー
「大阪教区信徒の皆さんへの手紙III」
~これからの歩み~
次の100年へ向かって歩みだす
千松清美司祭 古澤秀利司祭 成岡宏晃司祭
夢のある教会・教区 いのちを回復する新しい共同体
2023年10月9日(月・休)
14:00~16:00(受付13:30~)
会場 大阪聖愛教会

- 1日 大阪聖愛教会
8日 堺聖テモテ教会
15日 大阪城南キリスト教会
午後、インターナショナルデー(玉造)
22日 西宮聖ペテロ教会
創立94周年記念礼拝
29日 東豊中聖ミカエル教会
豊中2教会合同礼拝

主教巡回予定(10月)
魂の平安をお祈りします
ペテロ 志賀 成全
(8月21日・89歳)

高槻聖マリヤ教会(8月13日)
フランシスカ 萬代 百々花

洗礼

- I. 協議事項
* 教区事務所職員公募に応じられた2名の候補者の面接を行い、常置委員会推薦について協議した。
* 原田光雄司祭が病気療養となられたことから、ルシヤ教会の対応等について協議した。

- 弥生会計による月次報告があり、教区分担金累計が着実に推移している旨、報告があった。
* 以前、局費としてまとめられていた支出分の区分けについては、今後も検討を重ねる。
II. 協議事項と主教諮問
* 教区事務所職員の退職金について協議した。
* 教区事務所職員公募の件について協議した。
* 教区会書記について、柳時京司祭(長)、金山将司司祭、内田望司祭とすることを了承。
* 教区の今後について協議し、主教人事案を確認した。